

平成 28 年度第 3 回（第 10 期）浦安市廃棄物減量等推進審議会（議事要旨）

1 開催日時 平成 28 年 11 月 21 日（月）午後 3 時 00 分～4 時 30 分

2 開催場所 浦安市役所 10 階 協働会議室

3 出席者

（委員）

下田会長、畑山副会長、篠原委員、中尾委員、崎野委員、益子委員、志村委員、橋本委員、荒井委員、平林委員

（事務局）

大塚都市環境部長、仲谷都市環境部次長、熱海ごみゼロ課長、林崎クリーンセンター長、堀木課長補佐、亀山副主幹、石井副主査、瀬能尾主事

（傍聴者）1 名

4 議題

（1）審議事項

ア．浦安市一般廃棄物処理基本計画の取り組みの検証と評価

イ．減量目標値や再資源化率達成の設定についての検証

（2）その他

5 議事の概要

（1）大塚都市環境部長、下田会長あいさつの後、事務局より本日の審議事項の流れ及び審議内容を説明し、その後委員による質疑を行った

（2）事務局より各種お知らせ及び今後のスケジュールについての説明を行った

6 会議経過

浦安市廃棄物減量等推進審議会規則第3条第1項により、審議会会長を議長とし、会長が議事を進行した。

○主な審議内容、質疑等は次のとおり。

- ・事務局 ごみ処理基本計画策定指針（資料1）の1頁に「1. 一般廃棄物処理計画の概要」として、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の規定に基づき、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図りつつ、一般廃棄物の適正な処理を行うため、当該市町村の区域内の一般廃棄物に関する計画を定めなくてはならないとある。

浦安市の基本計画は、平成25年3月に策定した。平成25年度を初年度とし、8年後の平成32年度を目標年度とする基本計画を指針としている。

この基本計画はおおむね5年ごとに改定することとなっており、本計画で掲げた数値目標や重点施策などについての達成度や各々の取り組みの進捗状況を踏まえ見直しを図ることになっている。本日、第3回目の審議会では、現行の基本計画における目標値設定の方法と、平成27年度の実績を用いて、検証と評価を行った。

なお、議題ア. 浦安市一般廃棄物処理基本計画の取り組みの検証と評価について「浦安市一般廃棄物処理基本計画」の54頁に記載されている基本目標を用いて説明した。

○目標1について

家庭ごみ原単位は一人1日当たり約63gの減量（平成23年度比）を目指し設定した。平成27年度実績では一人1日当たり約573gの排出量であり、これは平成23年度実績の一人1日当たり625.8gに対し、52.8gの削減になっている。結果、中間目標年度である平成28年度の一人1日当たり594.4gの目標値をすでに達成している。

しかし、国及び千葉県が設定する目標年度における目標値は500

g以下となっており、本市においてはさらなる取り組みを実施していく必要がある。

また、浦安市には焼却施設はあるものの、最終処分場を持たず、北茨城市、下妻市に受け入れをしてもらっていることから、排出抑制を推進しなければならないと認識している。

併せて目標1の説明として4項目の施策について検証と評価を行った。

○目標2について

本市基本計画での事業系ごみは、約6%の削減を目標として設定しているが、平成27年度の実績は、平成23年度の実績に対し5.8%の増となっている。中間目標年度である平成28年度の数値を達成することは難しく、評価的には厳しい。

併せて目標2の説明として5項目の施策について検証と評価を行った。

- ・ 会 長 ただ今事務局より説明のあった基本計画の中の基本目標1、2について様々な取り組みをこれまで行ってきた。平成27年度の実績を踏まえての検証では家庭系ごみについては達成しているが、国、県の目標に比べるともう少し頑張れる余地があるのではないかと思う。事業系ごみについては逆に増えているということから、目標を達成していないこととなる。

なお、基本目標は国及び県のごみ減量、再資源化目標を踏まえて、その上で本計画に示す様々な取り組みを推進して、その数値目標を達成していくということが極めて望まれると思う。

これについて何かご質問やご意見はあるか。

- ・ 委 員 一般家庭については非常に成果が出ているが、事業系の方は前期の審議会でも問題に上げられ、数量的にオーバーしている状態にある中で、今後その辺を詰めて行く上で、浦安市の地域性を考えると事業系ごみを減らしていくことは、人口も多く、商業地、施設もあるので現状では厳しいと思う。家庭ごみの減量化を達成した最大

の要因が分かれば事業系の今後の努力目標が取り組みやすいと思うが、その要素は何か分かるのか。

- ・事務局 事業系ごみについては生ごみなどの減少はないが、今現在浦安市では紙類等の資源物を回収している。新聞、雑誌等はデジタル化の時代に伴い、購読者数が年々減ってきており、集団資源回収については減少気味にあるが、効果は大きいと思う。また、2年前から行っている使用済み小型家電の回収は増えてきている。さらに、月に一度、廃食油や古着の回収を行っており、こちらも年々増えてきている。その辺りが要因ではないかと思う。
- ・会長 4つの取り組みの中でどれが一番減量に効果的であるのか。
- ・事務局 資源回収の部分でごみ減量の効果が表れていると考えられる。
また、燃やせるごみ、燃やせないごみとも減少しているが、燃やせないごみについては平成25年10月から毎週行っていた回収を月2回に減らしたことにより、自然と減少してきた。
また、可燃物については経済状況に関係し、ごみ量の減少に繋がっている。5年前の東日本大震災後のごみ量は例外として考えれば、ごみの量はそれ以前から着実に減っており、市民の方に市が行うリサイクルに対する施策に協力をいただき、また収集回数を減らす等の施策に基づきごみ量が減っていると考えられる。
- ・会長 委員の皆様でこの件について何かあるか。
- ・委員 昔はペットボトルもごみとして捨てられていたが、現在はきちんと分別され回収されてきている。燃やせるごみの減少は、このような分別がしっかりできてきた結果と感じる。
- ・委員 今、説明のあったことのまとめたデータがあると、次回の審議会でも参考になるのではないか。
- ・事務局 今回は目標値の設定を行う前に、前回平成25年に作成したものと平成27年度の実績を用いての分析ということで説明した。
次回は施策の話をするので、その時にデータをお渡しし、それを踏まえていろいろご意見いただきたいと思う。
- ・会長 他に検証1, 2を行ったことについて何かあるか。
- ・委員 少量事業者の基準は何かあるのか。

- ・事務局 1日平均45リットル1袋程度のごみを排出する事業者が少量排出事業者の対象となる。
- ・会長 事業者に対するマニュアル、ガイドラインを示す様、審議会でも提案しており、現在事務局で作成中とのことであり、併せてお願いしたい。次回は施策ということでデータを用いて掘り下げた議論をして行きたいと思う。
続いて議題のイ) について説明願いたい。
- ・事務局 イ) の減量目標値や再資源化率達成の設定についての検討について説明した。

○目標3について

浦安市一般廃棄物処理基本計画55ページの目標3で、再資源化率約23%以上の実施を目標として設定しているが、検証として平成27年度の実績は約19%であった。これは平成23年度実績の約20%に対し、1ポイントの低下となっており、中間目標年度(平成28年度)の21%を達成するには一層の努力目標が必要であると考ええる。

併せて目標3の説明として5項目の施策について説明をした。

なお、「最終処分量の目標値」は、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の影響により目標値の設定はできない状況にあったため、表記していなかったが、次回(平成29年度)の「浦安市一般廃棄物処理基本計画」では設定することになる。

- ・会長 資料1と資料2の絡みはどうなっているのか。
- ・事務局 資料1については国が策定したごみ処理基本計画の抜粋となっており、一般廃棄物処理計画の概要が記載されている。資料2については千葉県が目標年度を平成32年度に500g以下と目標値を策定した抜粋となっている。
- ・会長 千葉県では500gを目標値に設定しているが、平成27年度の浦安市の実績は573.2gでありさらに減量をしていくことが望まれる。

もう一つの指標である再資源化率は数字が大きくなる方が良く、集団資源回収の推進ということで自治会やPTAが非常に貢献を成したということが言えると思う。

これらを踏まえて何かご質問やご意見はあるか。

- ・ 委 員 公民館等での小型家電の回収は多いのか。
- ・ 事務局 回収量は増えており、福祉団体により回収・分解を委託して希少金属等を回収できている。
- ・ 委 員 どのような物が多く回収されているのか。
- ・ 事務局 携帯電話は横ばいだが、ドライヤーや炊飯器、コード類などが多く見受けられる。
- ・ 委 員 市のイベント等で小型家電の回収を行えないのか。
- ・ 事務局 昨年度の環境フェア等で行った実績はあるが、回収したものを運搬することが困難であり、今年度は見送った。
- ・ 委 員 小型家電回収ボックスに入らないものはどうすればよいのか。
- ・ 事務局 設置しているボックスの投入口は 30 cm×15 cmなので、入らない小型家電製品もある。小型家電とは携帯電話端末・PHS 端末、パーソナルコンピュータ、デジタルカメラなどをはじめとする電気機械器具のことを言い、ボックスに入らないものについては窓口で回収している。

また、粗大ごみの定義に該当する家電は小型家電ではなく、粗大ごみとして受益者負担により処理することが優先される。
- ・ 委 員 粗大ごみとして排出された電子レンジ等はそのまま破碎されてしまうのか。
- ・ 事務局 一度業者によりクリーンセンターへ持ち込まれたものを、福祉団体により分解し、再資源化を図っている。
- ・ 委 員 多少大きな小型家電で 30 リットルの燃やせない指定袋に入るものは小型家電と知らず今まで捨てていたが、その区別が市民には判りづらいのではないか。

基準を徹底することで小型家電の回収も増えるのではないか。
- ・ 事務局 平成 26 年 2 月に国の実証事業として行い、その際に詳細を載せたチラシを作り全戸配布を行ったが、改めて周知していくこと

を検討する。

・会 長 一つの取り組みについて周知していくことが必要である。

・事務局 一般廃棄物処理計画の 54、55 ページでは 3 つの基本目標である家庭系ごみ、事業系ごみ、再資源化率の目標値の原単位について説明した。

3 つの基本目標に最終処分量の目標値を加えたものが、来年度に基本計画を作成していく時の目標となる。また 56 ページから 60 ページまでのまず 56 ページが目標値を設定しない場合、将来的にごみの量がどうなるのか、リサイクル率がどうなるのかを示しているものである。その下図が目標値を設定した場合、設定しない場合と比較し、どのくらい差があるのかという表となっている。

57 ページの 3-22 左側に平成 18 年度に策定した目標値が掲載してあり、当時は 70 g の減量を目標にしていた。

事業系ごみについては 5 % 以上の減量、再資源化率については 30 % 以上に向けようと目標値を設定した。それに対する平成 28 年 12 月 1 日 23 年度の実績から平成 32 年度の最終目標値の比較になっている。

58 ページでは目標値などを設定する際の見通しを表したもので、ごみの排出量の見通し、資源物量の見通し、59 ページに移り、中間処理量の見通し、粗大ごみ・燃やせないごみなど処理量の見通し、60 ページに移り、再資源化施設処理量の見通し、最終処分量の見通しと、それぞれ将来の見通しを作り目標値を設定していく。

来年度は一般廃棄物処理基本計画を作成する上で、基本的にはこのような見通しから目標値を設定し、これに合わせた目標を設定するためにどのような施策が必要なのか検討していく。

・会 長 今の説明について何かご質問やご意見はあるか。

・委 員 再資源化率の目標の①資源物の分別排出の徹底及び③小型家電品

の分別・再資源化について、飲料用紙パック等や小型家電品のそれぞれの回収率はどうなっているのか。

さらに家庭系ごみの種類は何がどのくらいの割合になっているのかが分かっているならば、再資源化できるものも増えて、一般のごみが減るのではないではないか。

・事務局

排出されたごみはクリーンセンターで2ヶ月に1度、組成分析を行っており、ごみ質は把握している。資源物についても調査を行い打ち出していくことは必要だが、回収率については全体を把握できていない。ただし、クリーンセンターへ持ち込まれるものを全体量として見れば知ることにはできる。再資源化される中でも集団資源回収で集めた資源物については直接業者へ渡すが、これらは業者から明細書が渡されるので、これに基づいて回収量は出せる。しかし、その他直接業者が回収する資源物については把握していないので、それらを全部含めた上での回収率は把握できない。

・会長

本日は浦安市一般廃棄物処理基本計画の取り組みの検証と評価において基本計画の54ページ示された目標1・2・3に照らし、平成27年度の実績を基に報告があった。家庭系のごみは減少してきており、これは市民、関係各位の努力によって減らしてきたものであるが、国や県が定める目標値と比べると、浦安市は高い数値となるので、一層の取り組みが必要との報告があった。

またどのような要因が家庭系ごみの減量に繋がったかということで、リサイクルとして廃油や古着の回収、ごみの収集回数の減少、また経済状況やペットボトルの適正な排出方法などが上げられた。事業系ごみについては少し増加傾向にあることから地域等の特性から減らすのは難しいのではないかと意見も出たが、少量排出事業者への排出方法や事業者への指導マニュアル、ガイドラインを作成し徹底していくことの議論がなされた。

また、減量化の目標や再資源化率の達成については自治会・PTA等の努力も大きく、再資源化は進んでいるが、まだ目標は達成できていないので更なる努力が必要となる。小型家電については粗大ごみとの線引きをどう市民に周知徹底していくかと言う

ことが意見として出された。

さらに、目標値を立てた場合と現状のままで推移した場合の比較や、今後の目標値の設定の仕方、あり方の説明があった。

次回はデータを踏まえて議論を先に進めていきたいと考えている。

- ・会 長 他にご質問はないか、なければ本件についての審議は終了したい。

○ その他連絡事項

- ・事務局 次回の審議会を1月下旬頃に予定していること。また、本審議会の報酬の支払いについても説明した。
- ・会 長 他にご質問はないか、なければ以上を持って、平成28年度第3回浦安市廃棄物減量等推進審議会を閉会する。委員の皆様のご協力により、本日本日予定していた審議を終了することができたので、お礼を申し上げたい。